

## 5 「久留米市立船越小学校 いじめ防止基本方針」

### はじめに

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがあるものである。

本基本方針は、学校・地域・家庭その他の関係者の連携のもと、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するために策定するものである。

また、実情に即した基本方針となるよう、その都度見直しを図るものとする。

### 1 いじめの防止等の取組に関する基本理念について

いじめは、全ての児童に関係する問題であり、いじめの防止等の対策は、全ての児童が安心して学校生活を送り、様々な活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるようにすることを旨として行われなければならない。

また、いじめの防止等にあたっては、「いじめは人間として絶対に許されない」という強い認識のもと、「どの学校、どの子にも起こりうる」という危機意識を持つとともに、「いじめられている子を最後まで守り抜く」という強い信念を持ち対応に当たるものとする。

そして、児童の中には、心理的または物理的な影響があると思われる行為を受けているにもかかわらず、心身の苦痛を感じない児童や心身の苦痛を感じていても、周囲の反応を恐れて、いじめられていることを表出できない児童もいることに配慮し、個々の児童理解に努め、様々な変化をとらえて、適切に対応しなければならない。特に、学級等の所属集団の構造上の問題、「観衆」としてはやし立てたり面白がったりする存在や、周辺で暗黙の了解を与えている「傍観者」の存在にも注意を払い、集団全体にいじめを許容しない雰囲気が形成されるようにする必要がある。

### 2 いじめの防止に向けた学校組織体制について

#### (1) いじめの定義

「いじめ」とは、「児童等に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等、当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」

#### (2) いじめ防止基本方針の策定と組織等の設置

##### ア「学校いじめ防止基本方針」の策定

いじめ防止対策推進法の趣旨を踏まえ、本校におけるいじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に進めるため、「船越小学校いじめ防止基本方針」を定める。

なお、設定した基本方針については、学校のホームページの掲載その他の方法により、その内容を容易に確認できるような措置を講ずるとともに、必ず入学時・各学年度の開始時に児童、保護者、関係機関等に説明する。

##### イ「校内いじめ問題対策委員会」の設置

本校は、「校内いじめ問題対策委員会」に代わる組織として、「いじめ・不登校等対策委員会」を設置する。

「いじめ・不登校等対策委員会」は、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応の取組を実効的に行うことを目的とし、校長、教頭、主幹教諭、生徒指導担当者、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等で構成し、月に1回、定期的に開催する。

##### ウ 学校の取組状況の評価と検証

「いじめ・不登校等対策委員会」において、学校基本方針に基づくいじめ問題への取組状況を評価するとともに、いじめ問題への効果的な対策が講じられているかどうかを検証し、検証の結果を指導の改善に生かすようにする。

特に、いじめの防止等のための取組に係る達成目標を設定し、その評価結果を踏まえ、いじめの防止等のための取組の改善を図る。

##### エ 関係機関との連携

いじめの中には、犯罪行為として取り扱われるべきと認められ、早期に警察に相談するものや直ちに警察に通報することが必要なものが含まれる。そのため、日常的に所轄の警察署等と連携していくこととする。

また、いじめの防止等のための対策が関係者の連携の下に適切に行われるよう、久留米市教育委員会との連携や関係機関との連携、関係会議等への参加や担当窓口の明確化等を引き続き行い連携強化に努める。

オ 適切な学校評価

学校評価については、国の「学校評価ガイドライン」を参考に、いじめの有無やその多寡のみを評価するのではなく、日頃からの児童理解、未然防止や早期発見・早期対応の取組、迅速かつ適切な対応、組織的な取組等の評価項目を作成し、アンケート調査等により行い、その結果を以後の取組に生かす。なお、いじめの取組に関する評価は、「いじめ・不登校等対策委員会」において行う。

**3 いじめの防止のための具体的取組について**

(1) いじめを生まない教育活動の推進

ア 人間関係スキル育成の取組の推進

- ① 受容的・共感的理解に立った学級経営の実施
- ② すべての児童が参加できる、活躍できる授業の実施
- ③ 環境自然体験学習の実施（第5学年）

イ 生命尊重や思いやりの心を育てる道徳科教育の推進

- ② 全学年で飼育・栽培活動の実施
- ② 地域の方々（保太流の会、JA 農林部会等）との交流
- ③ 全校ボランティア活動（年1回）の実施

ウ 基本的生活習慣や規範意識の育成

- ① 保護者と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進
- ② 保護者と連携して「オフライン」運動の推進
- ③ 全校統一した学習規律の徹底

エ いじめ問題を解決できる学級・学年集団づくりの推進

- ① 学級活動において、学級の課題を解決する話し合い活動の充実
- ② 教科等の学習における、交流活動の設定

オ 児童の自治活動の推進

- ① 児童会による挨拶運動の実施
- ② 代表委員会の内容の充実

カ 児童の連帯感や存在感を高める体験活動の推進

- ① 縦割り班活動（掃除、集会、行事）の実施
- ② 全児童が参加した業間体育の実施

(2) いじめの早期発見

ア いじめ問題に対する学校の取組の充実を求めため、福岡県教育委員会作成の「いじめの早期発見・早期対応の手引」の活用を徹底を図る。

イ 「いじめに特化した無記名アンケート」（学期に1回）及び「学校生活アンケート」（月1回）を実施する。また、10月の市「いじめ問題対応強化月間」の取組を通じ、保護者に「家庭用チェックリスト」を配布し、早期発見に努める。

ウ 児童や保護者等がいじめに係る不安や悩み等の相談を行うことができるように、教育相談週間の実施（学期に1回）や教育相談ポストの設置を行うとともに、スクールカウンセラー（必要に応じてスクールソーシャルワーカー）の活用によるいじめの早期発見の体制の充実に努める。

エ 朝の登校時や休み時間等における教室や廊下、また、朝の活動及びスキルタイム（学級担任以外に他の職員が全学級に入って実施）等、日常の様々な場面において、子ども達の様子の観察を継続し、研修会や終礼等にて気になる子の交流の時間を設定する。

オ 「チーム船越として、全職員で全児童を守り育てる」という意識を常にもち、子ども達のことで気づきや気になることがあれば、休憩や放課後の時間に話題とする。

(3) いじめの早期対応

ア いじめを発見した場合及びいじめに係る相談を受けた場合は、「いじめ不登校対策委員会」に報告し、速やかに事実の有無の確認を組織的に行うとともに、その結果を教育委員会に報告する。

イ いじめの事実が確認された場合は、いじめを受けた児童やいじめを知らせてきた児童の安全を最優先に考えるとともに、いじめを受けた児童・保護者への支援といじめを行った児童への指導と保護者への助言を継続的に行う。また、必要に応じ、スクールカウンセラーによるカウンセリング等を行い、いじめを受けた児童の心のケアに努める。

ウ 学校がいじめの事実が確認された場合において必要があると認めるときは、いじめを受けた児童が安心して教育を受けられるようにするために、いじめを行った児童に対して教室以外の場所において学習を行わせる等の措置を講ずる。

エ 学校は、いじめの関係者間における争いが起きることがないように、いじめの事案に係る情報を関係保護者と共有するための措置を講ずる。

オ 学校は、いじめが犯罪行為として扱われるべきものであると認めるときは、教育委

員会及び所轄警察署と連携して対処する。

(4) **インターネットや携帯電話と利用したいじめへの対応**

ア インターネット上のいじめが重大な人権侵害に当たり、被害者等に深刻な傷を与えかねない行為であることを、道徳科をはじめとする授業や外部からの講師招聘講話などを通して学習する機会を充実させる。

イ ネット上の不適切な書き込み等については、被害の拡大を避けるため、保護者との連携のもと、プロバイダに対して速やかに削除を求めるなど必要な措置を講ずる。

ウ 具体的な対応に当たっては、必要に応じて法務局に協力を求めたり、児童の生命、身体等に重大な被害が生じる恐れがあるときは、所轄警察署に通報し、適切な援助を求めたりするなどの措置をとる。

エ 家庭におけるネットいじめへの理解や早期発見のために、ネット上のいじめに関する家庭用リーフレットの配布や「保護者と学ぶ規範意識育成事業」を活用した情報モラルに関する啓発の充実に努める。

併せて、インターネットによるいじめが重大な人権侵害に当たり、被害者等に深刻な傷を与えかねない行為であることを理解させる取組を行う。

(5) **教員研修の充実**

ア 年度当初に、「いじめの早期発見・早期対応の手引」等を活用しながら、いじめ問題についての早期発見・早期対応に関する共通理解を図るための研修を実施する。

イ 夏季休業期間等において、いじめ問題に関する事例研究や児童生徒理解の深化等の研修を実施するとともに、スクールカウンセラー等の専門家を講師に招聘し、教職員の実践的指導力の向上を図る。

ウ 「いじめの早期発見・早期対応の手引」の「教師自らを振り返るポイント」を活用して、いじめを見逃さないための教員自らの感性を豊かにするための自己評価を定期的に実施する。

エ 授業評価等を活用して、自らの言動が児童生徒にどのように受け止められているかを客観的に捉え直す機会を研修内容に位置づける。

オ 教職員と児童及び保護者との信頼に基づいた関係づくりや対応の在り方に関する研修を実施する。

(6) **保護者・地域等への働きかけ**

ア 保護者及び家庭における子どもの規範意識の育成を支援するために、いじめに特化したリーフレットの家庭への配布や相談窓口の紹介カードの配布、久留米市教育相談窓口の周知など家庭への支援を継続し、啓発活動を推進する。

イ 家庭におけるインターネットを通じて行われるいじめへの理解や早期発見の促進のために、家庭用リーフレット配布や親子を対象にした講演会等を通して、インターネットを通じて行われるいじめに関する内容の周知に努める。

ウ P T A総会等を通じて、福岡県P T A連合会による「いじめ撲滅月間」（6月・10月）における取組への理解や推進を図り、地域や家庭に対して、いじめの問題の重要性の認識を広めるとともに、家庭訪問や学校通信などを通じて、家庭との緊密な連携協力を進めることに努める。また、地域や家庭に対して、いじめの問題の重要性の認識を広めながら、より多くの大人が子供の悩みなどに気づき、受け止めることができるように努める。

**4 重大事態への対処について**

いじめにより、児童の生命・心身等に重大な被害が生じた疑いや相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合は、次の対処を行う。

(1) 重大事態が発生した場合、直ちに事態発生について市教育委員会に報告する。

(2) 市教育委員会と調査主体や調査組織について協議した上で、当該事案へ対処する組織を設置する。

(3) 上記組織を中心として、当該事案についての客観的な事実関係及び再発防止のための調査を行う。

(4) いじめられた児童又は保護者の希望により、並行して市長及び市教育委員会による調査を実施する場合には、各調査主体が密接に連携し、調査対象となる児童への心理的な負担を考慮しながら調査を実施するものとする。

(5) 学校が調査主体とならなかった場合、学校は当該事案に関する資料を提供するなど、積極的に調査に協力するものとする。

(6) 当該事案に係る調査結果については、いじめを受けた児童（生徒）及び保護者に対し、当該調査に係る事実関係等その他の必要な情報を適切に提供する。

## 重大事態対応フロー図

### <いじめの疑いに関する情報>

- 「いじめ・不登校等対策委員会」で、いじめの疑いに関する情報の収集と記録、共有
- いじめの事実の確認を行い、結果を久留米市教育委員会（0942-30-9217）に報告

### <重大事態の発生>

- 久留米市教育委員会（0942-30-9217）に、重大事態の発生を報告
  - (ア) 「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」（児童が自殺を企図した場合等）
  - (イ) 「相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑い」（年間30日を目安。一定期間連続して欠席しているような場合などは、迅速に調査に着手）
- ※ 「児童や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申立てがあったとき」

### <久留米市教育委員会が、重大事態の調査の主体を判断>

#### I 学校を調査主体とした場合

久留米市教育委員会の指導・支援のもと、以下のような対応にあたる。

##### 1 学校の下に、重大事態の調査組織を設置

- 組織の構成については、専門的知識及び経験を有し、当該いじめ事案の関係者と直接の人間関係又は特別の利害関係を有しない第三者の参加を図ることにより、当該調査の公平性・中立性を確保するように努める。
- 「いじめ・不登校等対策委員会」を母体として、当該重大事態の性質に応じて適切な専門家を加えることも考える。

##### 2 調査組織で、事実関係を明確にするための調査を実施

- いじめ行為の事実関係を、可能な限り網羅的に明確にする。この際、因果関係の特定を急ぐべきではなく、客観的な事実関係を速やかに調査する。
- たとえ調査主体に不都合があったとしても、事実にしっかりと向き合う。
- これまでに学校で先行して調査している場合も、調査資料の再分析や必要に応じて新たな調査を実施する。

##### 3 いじめを受けた児童及びその保護者に対して情報を適切に提供

- 調査によって明らかになった事実関係について提供する。（適時・適切な方法で、経過報告があることが望ましい）
- 関係者の個人情報に十分配慮する。ただし、いたずらに個人情報保護を楯に説明を怠ることがないようにする。
- 得られたアンケートは、いじめられた児童や保護者に提供する可能性があることを念頭におき、調査に先立ち、その旨を調査対象の在校生や保護者に説明する等の措置をとる。

##### 4 調査結果を久留米市教育委員会に報告

- いじめを受けた児童又はその保護者が希望する場合には、いじめを受けた児童又は保護者の所見をまとめた文書の提供を受け、調査結果に添える。

##### 5 調査結果を踏まえた必要な措置

#### II 久留米市教育委員会が調査主体となる場合

※ 久留米市教育委員会の指示のもと、資料の提出など、調査に協力